

市の重要施策に係る説明と意見交換を行います

今回の案件は重要施策のうち、次の3件です。

- 1 夏油高原スキー場の今後の対応について
～今後の展望と財政への影響は？～
- 2 災害時コミュニティFMの整備について
～災害コミュニティFMって何？～
- 3 水道広域化による水道料金について
～水道料金、どう変わる？～

問い合わせ 広聴広報課 72-8229

お住まいの地区に限らず、どの会場でも参加できます。都合に合わせてご来場ください。

日時	場所	
6月4日(火)	黒沢尻北地区交流センター	黒沢尻東地区交流センター
6月6日(木)	黒沢尻西地区交流センター	稻瀬地区交流センター
6月13日(木)	黒岩地区交流センター	口内地区交流センター
6月14日(金)	飯豊地区交流センター	更木地区交流センター
6月20日(木)	鬼柳地区交流センター	和賀地区交流センター
6月21日(金)	相去地区交流センター	江釣子地区交流センター
6月25日(火)	立花地区交流センター	岩崎地区交流センター
6月28日(金)	二子地区交流センター	藤根地区交流センター

広報きたかみ第533号(5月10日発行)3～5ページの記事中に、誤りがありました。おわびして訂正します。

3ページ

- ①事業の継続【公設民営】今後10年間のトータルコスト (誤)「4億7,900円」 → (正)「4億7,900万円」
②事業の継続【公設公営】今後10年間のトータルコスト (誤)「7億7,900円」 → (正)「7億7,900万円」

4ページ

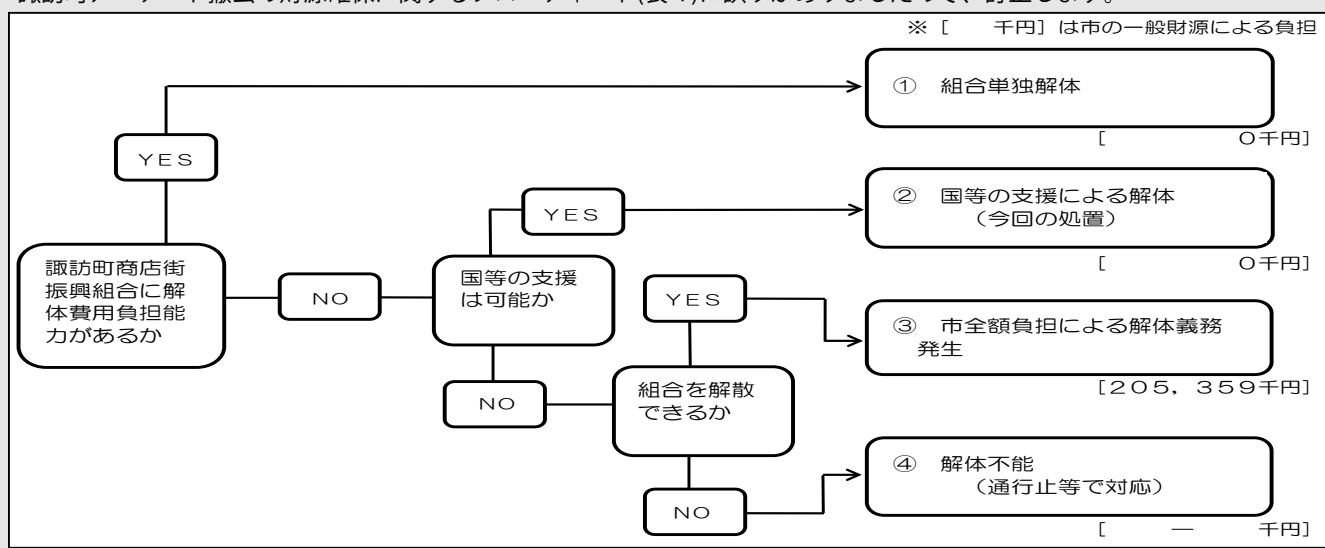
(誤) (注2)市民スキー場規模でのスキー場利用客
は、ほかの40%、料金は60%、施設整備に
係る経費については60%で試算を行った。

(正) (注2)市民スキー場規模での投入コストは、公設
公営の場合に比べ、スキー場の利用者数は6割
減、料金収入は4割減、施設整備に係る経費につ
いては4割減で試算を行った。

5ページ

電子メール (誤)「shokan@city.kitakam.ne.jp」 → (正)「shokan@city.kitakami.iwate.jp」

諏訪町アーケード撤去の財源確保に関するフローチャート(表4)に誤りがありましたので、訂正します。



民間に委託して被災者の健康見守り支援

市内の避難者状況

(4月30日現在)

田野畠村	宮古市	山田町	大槌町	釜石市
1世帯	10世帯	27世帯	77世帯	58世帯
4人	16人	61人	150人	140人

大船渡市	陸前高田市	宮城県	福島県	市内間
17世帯	35世帯	22世帯	23世帯	4世帯
33人	62人	53人	66人	8人

※市で把握している人数です。市内に避難している人で、まだ北上市に連絡していない人はご連絡ください。

市が震災対応支援のため、民間に委託し、大船渡市に保健師などを派遣する沿岸被災地健康見守り支援事業の開式は7日、大船渡市で行われました。

沿岸地域を中心に雇用した看護師や保健師、栄養士、関係者などが出席。看板を除幕し、被災者や仮設住宅の運営事業支援員の心のケアを含む健康の維持・管理に向けて気持ちを一つにしていました。この事業は、北上市が岩手

県の緊急雇用創出事業を活用し、(株)ヒロキアスタッフ(盛岡市、臼沢宏幸代表取締役社長)に業務委託。保健師、看護師、栄養士など、特定の専門知識などを持つ人材を確保して、大船渡市の仮設住宅や仮設災害公営住宅などを定期的に訪問し、被災者の



見守り支援事業の看板を掲げる戸田公明大船渡市長、高橋市長、臼沢社長(左から)

「ウソ」のお話



北上・みちのく芸能まつり運営委員会は4月17日、北上商工会館で行われました。今年のまつりは、これまで8月第1土曜日から3日間としていた日程を、滞在型の観光と市民参加を図るため、金曜日から日曜日までの3日間に変更。終了時間も公演の演出効果を図るため、昨年より30分繰り下がって午後8時30分までとしました。まつりの日程は、初日の2日(金)が、みこしパレードや市民パレードのほか、新たに行われる鬼剣舞育成団体の大



群舞。3日(土)は、市内各地で芸能公演を行った後、お祭り広場での芸能公演と鬼剣舞の大群舞。4日(日)は、市内各地で芸能公演を行い、夜から北上川河畔で「トロツコ流し」と花火の夕べ」を開催する予定です。

今年の北上展勝地さくらまつりは、寒さの影響でゴールデンウイーク連休後半まで満開が続き、多くの人を楽しませてくれた。ただ、少し残念だったのは「ウソ」の被害で花数が少なくなってしまったことだ。「ウソ」とは、普段は木の芽や昆虫などを餌としている鳥だが、サクラやウメの花芽を食べる場合もあるそうで、今年は大冷害だった平成5年以来、20年ぶりの全県的な被害だったようである。来年は、皆さんにサクラを楽しんでもらうため、しっかりと対策を取らなければならないだろう。

「ウソ」と言えば、「社会調査のウソ」という大阪商業大学教授の論文を読んだことがある。社会調査といえども浮かべるのはアンケート調査であるが、このアンケート調査結果をうのみにする危険性を説いたものである。なぜなら、設問の順序や前提条件の付け方、対象者の設定でいくらでも結果を誘導出来るからだそうだ。しかも、アンケートを作る本人も誘導に気付かない場合もあるという。自分と同じような意見の人たちを対象に選択式のアンケート調査を行い、さも100%に近い賛同を得られたかのように言いはやす人を見掛けるが、それこそ要注意である。私はこの論文を読んで以来、アンケート調査をうのみにしないことにしている。しかも無記名で選択式のものは、誘導された責任の無い回答の可能性があると思っている。職員に調査をしないように薦めていた。政策などに対する意見はなるべく選択式のアンケート調査をしないように薦めている。氏名を明らかにして意見を述べることは確かに勇気のいることであるが、より良い市政のために、それだけに本気度を伺い知ることができるものである。鳥の「ウソ」と社会調査の「ウソ」。皆さんはどちらなら許せるだろうか。